

DUBAI 24HR RACE 2010

2005年から、ドバイオートドームを舞台に24HRレースが開催されるようになり、5周年を迎えるメモリアルな大会に参加することになりました。

中東アラブ首長国連邦最大の都市であるドバイは、アジアとヨーロッパの境に位置し、石油は出ないのですが、ジュベリアルアリ港を中心とした貿易の街として栄えた大都市です。地上100階を超える超高層ビルが立ち並ぶ、華やかな街並みが、レースを派手に演出してくれます。



DUBAI 24HR RACEへの日本からの参戦は、TEAM930RUSHが、初めてとなりました。手探りながら、車両、メカニック、ドライバーなど全て日本から同行すると言った、オールジャパン体制で挑みました。総参加台数は77台。我々は、ポルシェ964タイプのRUSH号を駆り、A5クラスからの参戦となりました。予選は56位、後方からの追い上げに期待します。



決勝スタートは、松島選手が担当し、砂漠の中のコースらしく、大量の砂誇りが舞う中、始まりました。序盤は順調に順位を上げ、クラス4位となりましたが、45分が経過したバックストレートエンドで、BMW D1のマシンを追い越す際、接触しRUSH号は、スピンしてしまいます。そこへ後続車が突っ込むと言う多重クラッシュを起こしてしまいました。



リアフェンダーを大破して走行不能となったRUSH号が、ローダーに乗せられピットに帰ってきました。右リアフェンダー、後輪のアームとドライブシャフトが折れていました。チームは、レースを諦めず、状況を把握して、リペアーのための部品調達を始めず。主催者もドバイのポルシェオーナー、クラブにメールを送り、探してくれる事になりました。ポルシェオーナーズクラブのブレアとスペンサーから、『ポルシェ964が見つかった!』と、第1報が入ります。ギャレスと言うオーナーが、サーキットまで持ってくるから、好きに使ってくれ!これで修復が可能です。何かお礼をするからと持ちかけましたが、ギャレスは、『レースが好きだから助けに来たよ。お礼なんていない。明日また見に来るから、コースを走っている姿を必ず見せろよ!』と言い残して、見知らぬ初対面の外国人である我々に、ポルシェを1台預けたまま帰って行きました。



RUSH号は、スタッフの懸命な修復作業と、ドバイの暖かい人々に支えられて、見事コース復帰を果たしました。長い長い夜を超えて、RUSH号は傷つきながらも生き残り、レーシングスピードを保ったまま、朝を迎える事ができました。みんなの夢をのせてRUSH号は、走り続け、初の24時間レースを見事完走し、スタート前より少し良い52位で、ゴールできました。我々は、日本チームがDUBAI 24HR RACEに参加した、最初の1歩を刻みました。この経験が、続く参加者への道しるべとなれば嬉しく思います。